

日 時	平成 17 年 9 月 30 日 (金) 5 校時
児童数	3 年生 男子 1 名 女子 1 名 計 2 名 4 年生 男子 3 名 女子 1 名 計 4 名
授業者	佐々木 祐輔

第 4 学年

1. 単元名 場面をくらべて読もう
教材名 「一つの花」

2. 単元について

- (1) 児童について

4 年生の児童 4 人は、意欲的に国語の学習に取り組んでいる。物語文の学習や説明文の学習では、自分達で読み取りの学習を進めていこうとする姿勢がみられる。

1 学期に学習した物語文「白いぼうし」では、それぞれの児童が場面分けや課題作りを自力で行うことができた。また、各場面の読み取りでは、どの児童も場面の様子や登場人物の気持ちについて書かれてある文や語句にサイドラインを引くことができ、自分の力で課題に対するまとめを書くこともできている。しかし、自分の考えを発表する際、お互いの考えをよく聞いたり、友達の良い考えを認め合ったりして学び合うということまでには至っていない。本単元の学習を通して、友達の良い考え方やその良さを認め合えるように育てていきたい。

- (2) 教材について

第 3・4 学年の「C 読むこと」における目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。これを受けて、本単元では「キーワードに気をつける読み方を知り、場面意識をもって登場人物の様子や心情を読み取る。」を主目標とする。

本教材「一つの花」は、戦時中から戦後にかけて時代が大きく移り変わる中で、懸命に生きようとするゆみ子とその家族の姿を描いた物語である。ゆみ子が最初に覚えた「一つだけちょうだい。」という言葉に対する父や母の言動や行動から心情を想像したり、「みんなおやりよ、母さん。おにぎりを。」「～お父ちゃん、兵隊ちゃんになるんだって。ばんざあいつて。」「～一つだけのお花、大事にするんだよう。」等の会話文の中の（ダッシュ）に続く言葉や文を想像したりすることで、登場人物の様子や心情を読み取るのに適した教材である。

- (3) 指導にあたって

本教材を指導するにあたっては、単元の導入段階で、題名からどんな内容の物語かを予想させ、通読した後に心に残ったことや登場人物、みんなで話し合いたいことについて初発の感想を書かせたい。書かせることにより、児童自身に詳しく読み進めたいという意識を持たせていきたい。

この作品では、直接的な心情表現よりも状況や行動を表す表現が多く用いられている。登場人物の様子や気持ち、情景を読み取る際には、それらの状況や行動を表す文や語句に着目させて、場面ごとの読み取りを進めたい。また、教科書の挿絵の他に、戦時中の写真等を教室に掲示し、当時の厳しい生活状況に気づかせていきたい。

(4) 仮説にかかわって

重要語句を明らかにし、確かに読み取るための発問、指導の手立て。

- ・ 本教材を読み取る上で重要な戦時中特有の語句(「配給」「防空頭巾」「軍歌」等)について当時の写真を活用したり、国語辞典等で調べたりして時代背景を想像しやすいようにする。
- ・ 場面の様子や登場人物の気持ちを読み取るために、本作品のキーワードである「一つだけ」の語句や教科書の場面ごとの挿絵を掲示し発問をする。

重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

- ・ 課題解決に役立つヒントカードを用意し、間接指導時でも自分の力で学習を進められるようにする。
- ・ 上記のような配慮をしてもつまずいた場合には、ペアで相談・協力するような学習形態を工夫する。

3. 指導目標

関心・意欲・態度

- ・ 場面や登場人物の様子を想像しながら読もうとしている。

読む力

- ・ 登場人物や場面の様子を叙述をもとに想像しながら読み取ることができる。

言語の力

- ・ 表現・理解を深めるために必要な文字や語句を増し、文字や語句の性質を理解することができる。

4. 指導計画(11時間扱い、本時8時間目)

	主な学習活動	評価規準	具体の評価規準		努力を要する子への支援
			A	B	C
第一次 つかむ(4)	1 題名を読み、「一つの花」のキーワードである「一つ」という語句に関心を持つ。その後、題名から内容を想像し、通読後、あらすじをつかむ。	(読)いつ、だれが、どうなった話かをつかむことができる。	戦時中、厳しい生活状況の中、「一つだけ」という言葉を最初に覚えたゆみ子。戦争に行く父は一輪のコスモスを与えた。戦争が終わり、たくさんのコスモスの中でゆみ子と母が幸せに暮らしている話をノートにまとめることができる。	戦時中、「一つだけ」という言葉を最初に覚えたゆみ子。父は、ゆみ子と母を残し戦争に行った。戦争が終わり、ゆみ子と母が幸せに暮らしている話であることをノートにまとめることができる。	あらすじをつかめない場合は、教科書の挿絵をもとに気づかせていく。
	2 初めの感想を書き、感じたことを話し合う。	(読)心に残ったことや登場人物について、みんなで話し合いたいことについて書くことができる。	心に残ったことや登場人物、みんなで話し合いたいこと、疑問等について書くことができる。	心に残ったことや登場人物、みんなで話し合いたいことについて書くことができる。	感想を持ってない児童には、挿絵をもとに自分が心を打たれた場面や心に残った文や言葉から考えさせる。

	3 難語句を調べ。 （言）難語句を調べ、意味を理解することができる。	難語句の意味を調べ、使い方を理解し、短文を作ることができる。	難語句の意味を調べ、使い方を理解することができる。	
	4 場面分けをし、学習課題を話し合う。 （読）5つの場面に分け、場面ごとの学習課題を作ることができる。	場面の様子や誰が何をした場面かに着目して、場面ごとの学習課題を作ることができる。	誰が何をした場面かに着目して、場面ごとの学習課題を作ることができる。	場面の内容が理解できていない場合には、挿絵をもとに誰が何をした場面かを考えさせる。
第二次 まなぶ (5)	5 ゆみ子が最初に「一つだけちょうだい。」という言葉を読める理由を読み取る。 （読）ゆみ子が最初に「一つだけちょうだい。」という言葉を読める理由を読み取ることができる。	町はつぎつぎに焼かれ、戦争が激しくなり、ご飯のときでも、おやつるときでも、「もっともっと」と言っただけでも欲しがらるゆみ子に対して、母が「一つだけ、……」。一つだけ……」が口癖になってしま、ゆみ子も知らず知らずのうちに「一つだけちょうだい。」と読むようになることを読み取ることができる。	戦争が激しくなり、ご飯のときでも、おやつるときでも、いくらでも欲しがらるゆみ子に対して、母が「一つだけ、……」。一つだけ……」が口癖になってしま、ゆみ子も知らず知らずのうちに「一つだけちょうだい。」と読むようになることを読み取ることができる。	「一つだけちょうだい。」という言葉を読める理由について考えられない場合には、ゆみ子が食べ物を欲しがっている様子やそれに対する母の口癖について書かれている部分に着目させ考えさせる。
	6 お父さんがゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする心情や様子を読み取る。 （読）お父さんがゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする心情や様子を読み取ることができる。	いつでも「一つだけちょうだい。」というゆみ子の将来が心配であり、どんな子どもに育つかも心配になりそんなゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしてあげる父の心情や様子を読み取ることができる。	いつでも「一つだけちょうだい。」というゆみ子の将来が心配になり、そんなゆみ子を、めちゃくちゃに高い高いしてあげて喜ばせようとする父の心情や様子を読み取ることができる。	父がゆみ子をめちゃくちゃに高い高いする心情が読み取れない場合には、ゆみ子の将来を案じて深いため息をつく母の様子「一つだけちょうだい。」しか言わないゆみ子が不憫でならない父の心情について書かれてある部分に着目させ考えさせる。
	7 お母さんがゆみ子におにぎりを全部食べさせた心情を読み取る。 （読）お母さんがゆみ子におにぎりを全部食べさせた心情を読み取ることができる。	これから戦争に行く父との最後の別れになるかもしれないという時に、ゆみ子の泣き顔を見せたくないという思いで、ゆみ子におにぎりを全部食べさせた母の心情を読み取ることができる。	これから戦争に行く父に、ゆみ子の泣き顔を見せたくないという思いで、ゆみ子におにぎりを全部食べさせた母の心情を読み取ることができる。	お母さんがゆみ子におにぎりを全部食べさせた理由について考えられない場合には、「お母さんは、戦争に行くお父さんに、ゆみ子のなき顔を見せたくなかったのでしょうか。」の文に着目させ考えさせる。

	8 お父さんがゆみ子にコスモスをあげた心情を読み取る。(本時)	(読)お父さんがゆみ子にコスモスをあげた心情を読み取ることができる。	父の、ゆみ子との最後の別れになるかもしれないという思い、ゆみ子にできる精一杯の思い、コスモスの様にたくましく生きていつて欲しいという思いを一輪のコスモスに託した父の心情を読み取ることができる。	父の、ゆみ子との最後の別れになるかもしれないという思いやゆみ子にできる精一杯の思いを一輪のコスモスに託した父の心情を読み取ることができる。	父の取った行動に気づけない場合は、一輪のコスモスの花をあげたときの会話文やその様子を見届けた父の様子が書かれてある部分に着目させ考えさせる。
	9 戦争後のゆみ子の生活の様子を読み取る。	(読)ゆみ子が大きくなり、「小さなお母さん」になって、お昼の準備をしようとしている様子を読み取ることができる。	ゆみ子と母はコスモスに囲まれながらどんぶきの小さな家に住み、お母さんに肉と魚のどちらがよいかを尋ねたり、スキップをしながら買い物に出かけたりして明るく働き者に成長したゆみ子の様子を読み取ることができる。	母に肉と魚のどちらがよいか尋ねたり、スキップをしながら買い物に出かけたりして明るく働き者に成長したゆみ子の様子を読み取ることができる。	ゆみ子の生活の様子が読み取れない場合には、お母さんに肉と魚のどちらがよいか尋ねたり、スキップをしながら買い物に出かけたりしている文に着目させ考えさせる。
第三次 いかす (2)	10・11 ゆみ子への手紙を書いたり、読み合ったりする。	(読)友達の手紙を読み、よさを見つけることができる。	これまで場面ごとに読み深めてきたことを手がかりに、題名にこめられた作者の思いを手紙に書き、友達の手紙のよさを見つけることができる。	これまで場面ごとに読み深めてきたことを手がかりに手紙を書き、友達の手紙のよさを見つけることができる。	手紙が書けない場合には、これまで場面ごとに読み深めてきたところや心に残っていることを手がかりに手紙を書かせたい。

5. 本時の展開

(1) 目標

泣き出したゆみ子に、父が一輪のコスモスをあげた心情を読み取ることができる。

(2) 評価規準

泣き出したゆみ子に、父が一輪のコスモスをあげた様子やそのコスモスに込めた父の思いを進んで想像しようとしている。 (関心・意欲・態度)

父がゆみ子にコスモスをあげた心情を読み取ることができる。 (読む力)

(3) 仮説に関わって

重要語句を明らかにし、確かに読み取るための発問、指導の手立て。

- ・ 「～一つだけのお花，大事にするんだよう。」という語句を取り上げ，ゆみ子に対する父の思いを想像させる発問をする。

重要語句に着目した読み取る力を身につけられるような支援。

- ・ 泣き出してしまったゆみ子の様子，コスモスを渡し何も言わず汽車に乗っていった父の様子に気づかせるためのヒントカードを用意し，間接指導時でも自分の力で学習を進められるようにする。
- ・ 上記のような配慮をしてもつまずいた場合には，ペアで相談・協力するような学習形態の工夫をする。

(4) 展開

形態 (時間)	4 年 生			
	学習活動	留意点	支援	評価 重要語句
つかむ 5分	<p>1 前時の想起をする。</p> <p>2 本時の学習課題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>お父さんは、どんな思いでゆみ子にコスモスをあげたのだろう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・お母さんが「大事なお米」で作ったおにぎりを、全部ゆみ子に食べさせたことを想起させる。 		
まなぶ 30分	<p>3 学習内容を読み取る。</p> <p>本時学習場面を音読する。</p> <p>お父さんが取った行動が分かる部分にサイドラインを引いてノートに視写し、その語句から分かるお父さんの気持ちを書き込む。</p> <p>サイドラインを引いた重要語句を発表しそこから分かるお父さんの気持ちについて話し合う。</p> <p>「一つだけのお花、大事にするんだよう。」の「(ダッシュ)」に続く言葉を想像し、発表する。</p> <p>話し合ったことや「(ダッシュ)」に続く言葉から課題に対するまとめを自分なりに考えて書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に音読させる。 「～一つだけのお花,大事にするんだよう。」にっこり笑うと、何も言わずに、汽車に乗ってしまいました。 サイドラインが引けない児童には、ゆみ子に一輪のコスモスの花をあげたときの会話文、ゆみ子の喜ぶ様子を見届けたときのお父さんの様子が書かれてある部分に着目させるようなヒントカードを用意する。 ・サイドラインを引いた重要語句を根拠として発表させる。 ・「(ダッシュ)」の部分を想像させることにより、お父さんの気持ちをより読み深めさせたい。 お父さんの気持ちを想像できない児童には、第二場面のゆみ子をめちゃくちゃに高い高いするお父さんに触れ、ゆみ子に対するお父さんの気持ちを想起させ考えさせたい。 ・重要語句や話し合いで分かったことから自分の考えをまとめるようにする。 お父さんの気持ちについて、自分でまとめているか。(ノート) 		
いかす 10分	<p>4 本時の学習のまとめをする。</p> <p>まとめを発表し合い、友達の良いところを取り入れ、まとめていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>最後の別れになるかもしれないという思いや一輪のコスモスしかあげられないという思いからゆみ子にコスモスをあげた。</p> </div> <p>情景を想像しながら音読する。</p> <p>5 今日の学習の感想を書き、次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お父さんがあまり体の丈夫でないこと、体の丈夫でないお父さんまでもが戦争に行かなければならないことに触れ、お父さんの置かれた状況も想起させたい。 登場人物の様子や心情が表れるように音読しているか。(音読) ・3年生と感想を交流する。 		

(5) 具体的評価規準と努力を要する子への支援

	関心・意欲・態度	読む力
十分満足な子	場面の情景を進んで読み取り、情景と今までの学習から、ゆみ子やお父さん・お母さんについて考え、話そうとしている。	父の、ゆみ子との最後の別れになるかもしれないという思い、ゆみ子にできる精一杯の思い、コスモスの様にたくましく生きていって欲しいという思いを一輪のコスモスに託した父の心情を読み取ることができる。
概ね満足な子	場面の情景を進んで読み取り、それをもとに語句に着目してゆみ子やお父さんについて考えようとしている。	父の、ゆみ子との最後の別れになるかもしれないという思いやゆみ子にできる精一杯の思いを一輪のコスモスに託した父の心情を読み取ることができる。
努力を要する子への支援	挿絵をもとに、情景を考えさせ、ゆみ子やお父さんに興味を持たせる。	父の取った行動に気づけない場合は、一輪のコスモスの花をあげた父の会話文やその様子を見届けた父の様子が書かれてある部分に着目させ考えさせる。

(6) 板書計画

最後の別れになるかもしれないという思いや一輪のコスモスしかあげられない思いからゆみ子にコスモスをあげた。

「一っただけのお花、大事にするんだよ。」

一つの花
今西祐行 作

前時の挿絵

第四場面の挿絵

- ・お父さんには、もうゆみ子にあげられるものがない。
- ・お父さんには、一輪のコスモスをあげることしかできない。
- ・コスモスのようにたくましく生きていってほしい。
- ・ゆみ子の笑顔をみることでよかったです。
- ・安心して、汽車に乗っていった。